



第二ぎんなん便り

社会福祉法人 なが育成会
本市をつなぐ作業所
第二ぎんなん作業所
平成29年2月23日発行
第369号

障がいのある人の幸せ、 豊かな人生を考える

毎回の様に学校のことを出して恐縮ですが、学校（特別支援学校）では、「卒業後の豊かな生活」ということをよく考えていました。漠然としています。それは、「その人が大切にされ生きる喜びを持てる生活」、



- ①生きるめあてや目標を持ち続けられる生活
- ②家族や地域、職場や施設等、それぞれの集団の中で、何らかの役割を持ったり、認められたり、必要とされたりする生活
- ③周囲との関係の中で、自分らしさを保ち、自己実現が図れる生活

というものでした。

加えて、学校時代に、何でもいいので、楽しみや好きなもの、得意なもの、打ち込めるもの、趣味として持ち続けられるものなどを見つけたり、身に付けたりできれば、生活がより豊かになるのではないだろうか、学校を卒業した大人の人たちと一緒にいて思っています。

学校で考えていたもう一つのこと、この人たちの幸せとは何だろうか」ということです。もちろん幸せは人それぞれ違うでしょうし、一般的にどうというより、本人が「幸せ」と感じるかどうかだと思います。毎日の何気ないこと、小さなことの中にも幸せはあるでしょう。

毎日、元気に働く（働ける）ということも、幸せなことの一つだろうと、作業所の人たちを見ていて思います。朝、作業所に来て、1日働いて、「今日も1日がんばった」と満足した気持ちで帰る。そういう生活が幸せと思えるために、作業所は、利用者にとって、楽しい場、安らげる場、心許せる仲間がいる場、毎朝、行くのを楽しみと思える場でなければならないと痛感しています。

親や家族、愛する人と一緒に暮らすことを幸せと思う人も多いでしょう。これが一番かもしれません。ただ、その生活は、さまざまな事情で大きく変わる場合もあります。また、仲間との生活を希望する人もいます。

先日、NHKの教育テレビで、ある県の、家庭や地域生活に移行するために3年後に施設を閉鎖するという方針を打ち出した知的障がい者の入所施設の紹介がありました。利用者の方たちは自分で希望して入所したのではない、自宅や地域

に戻りたいという思いを実現させたいという趣旨のようでした。もちろん、何かあれば、24時間駆けつけるサポートセンターなどの体制をつくった上での地域生活への移行のようでした。

なるほどと思う一方、以前聞いた、入所施設でなければ守れない人がいるという、施設長のお話も頭に浮かんで来ました。何が一番いいのか……。



非常にまとまりのない話になりましたが、知的障がいのある人たちにとって、何が幸せか、それはどういう状態か、どうすればその状態をつくり、あるいは維持することができるのか、簡単に結論の出る話ではないものの、障がい者の人たちの福祉に身を置いた今、ずっと考えていかなければならないなと思うところです。



熊本市防災センターでの防災体験

2月10日（金）は、作業所近くの熊本広域防災センターで、防災体験をしました。

昨年4月の熊本地震の被害の説明を真剣に聞き、その後で、起震台に交替で乗りました。



熊本地震の説明を聞く

利用者は、毎年来ていることもあり、揺れが始まると、さっと身をかがめ、頭を守る姿勢が取れていました。他にも、風速20mの風を体験できる台風体験や煙から安全に逃れる火災体験も経験し、避難方法のD



地震体験：起震台に乗るVD視聴や防災グッズ見学など、とても有意義な防災体験でした。

震度6、7だった昨年の熊本地震の恐ろしさを忘れることなく、今後に生かすためにも、こういった防災体験はとても大切なことだと思いました。



今、農場では ジャガイモの植え付け

今月は、昨年11月に種をまいたダイコンを収穫、その後、ジャガイモの植え付けを行いました。

○ダイコンの収穫

ダイコンは、約60本ほど収穫。10本は植木市で販売、残りは保護者向けに販売しました。

○春ジャガイモの植え付け

種芋のメイクインを2分割し、切り口に腐食防止をして準備完了。畑では、一つ一つを丁寧に植え付けていきました。収穫は、6月頃になります。



植え付け準備

春ジャガの植え付け

好調だったハッサク販売

1月から販売してきましたハッサクは、おかげ様ですべて完売しました。

(※全部で、約600袋、750kgの量に)

甘いという評判で、地域の方をはじめ多くの方にお買い上げいただきました。ありがとうございました。



無人販売

ハッサクをご提供いただきました熊本県肢体不自由児協会事務局長の松尾様には、心より感謝を申し上げます。



実習生が2人お出でになりました。

○山本さん（九州ルーテル学院大学3年）

山本さんは、2月13日から5日間、介護等体験にお出でになりました。名前のおり、とても笑顔が多い明るい方で、初日から利用者と仲良くふれあっていらっしゃいました。



運動公園で

○中村さん（尚綱短期大学1年）

尚綱短期大学から、2月20日から3月8日までの13日間、保育実習で中村さんがお出でになりました。1年生で、実習自体が初めてということで、最初は緊張されたと思いますが、徐々に利用者とも打ちとけてきておられます。



女性3人で

JA植木まつりでの販売

県育成会のお世話で、2月4日（土）、5日（日）の2日間、JA植木まつりで販売を行いました。今回は、竹製品の在庫がなかった



JA植木まつりでの販売

とハッサク、農場で収穫したダイコンなどを販売しました。1日目はまずまずの天気でしたが、2日目は昼過ぎまであいにくの雨でした。

ホームページをリニューアル

作業所のホームページが古くなっていたので、リニューアルしました。と言っても、ホームページ作成の知識がなく、マニュアルを片手に一から作ったので、立派なものではありませんが、最新の情報をお伝えできるようにはなりました。

今週の1枚のコーナーやぎんなん便りのページも新設しましたので、ぜひご覧ください。

また、スマホ版も作っていますので、スマホをお持ちの方は、どうぞご覧ください。



パソコン版

スマホ版

寒さもようやく峠を越して本格的な春に向かうこの季節、自然とわくわくした気持ちになり、木や花の美しさにも目が向きます。

先日、文集集配の代役ドライバーで、市内の各区役所や出先機関などを回りましたが、各所で梅が咲きほこっていました。美しさや香りを楽しみつつも、白梅と紅梅で実は同じなのだろうかという疑問に思い調べたところ、私たちが口にしているのは白梅の実。紅梅の方は小さくて固く、苦味もあるため食用には向かないものの、幹の色あいの美しさから木材としての人気があるそうです。

自然はよくできているものだと関心しました。（高橋）

